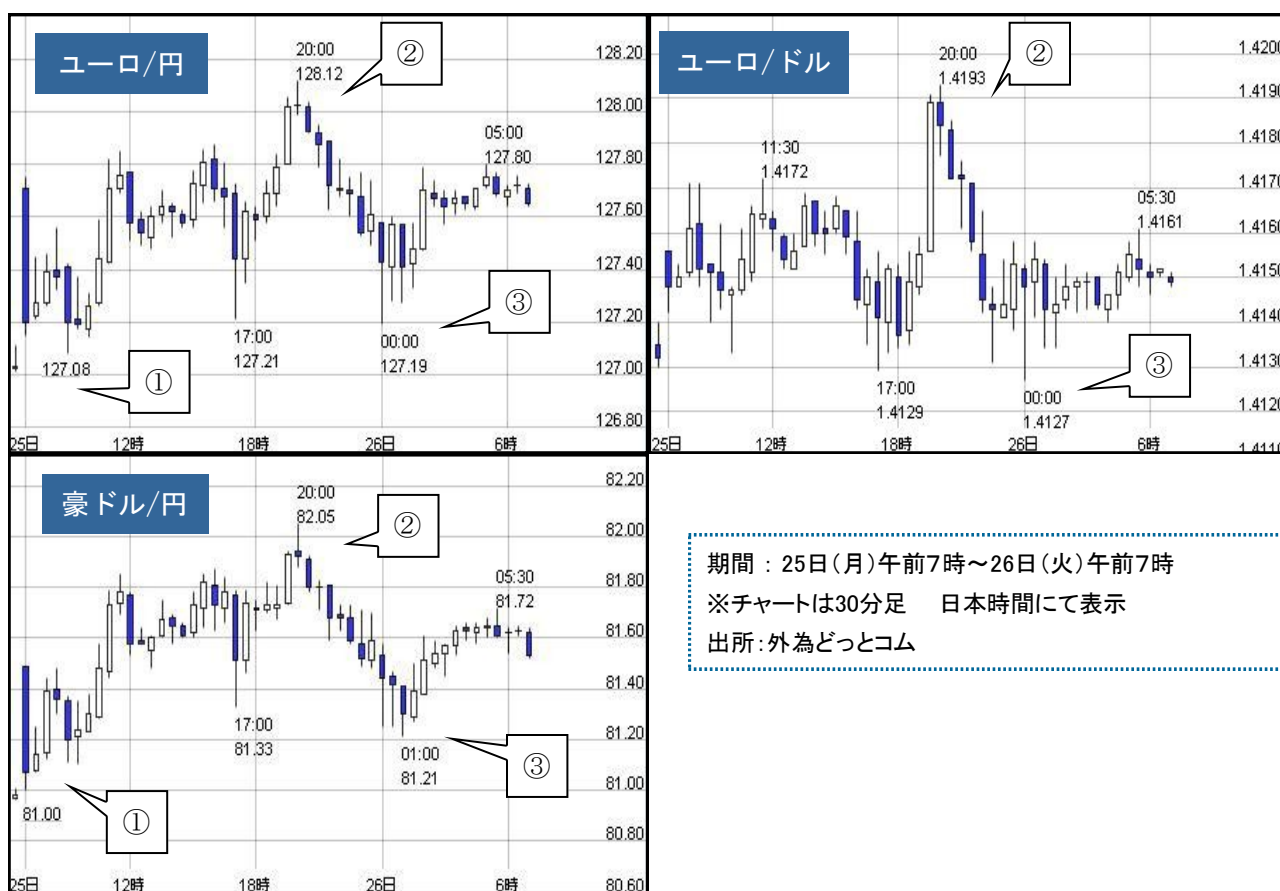


1月26日(火曜日)

ユーロ/円
ユーロ/ドル
豪ドル/円

ユーロ売り一巡・方向感欠く展開

25日(月)の主な推移



期間：25日(月)午前7時～26日(火)午前7時

※チャートは30分足 日本時間にて表示

出所：外為どっとコム

①

取引時間前にバーナンキFRB議長の再任の見通しが高まったことが伝えられると、リスク回避の動きが後退し、クロス円(ユーロ/円や豪ドル/円など)は上昇して始まったが、日経平均株価の軟調を想定した売りに押されクロス円はすぐに反落した。

②

時間外の金先物価格が1100ドルの大台を回復して上昇したことや、時間外のNYダウ先物が100ドル近く上昇したことを背景に、リスク回避の動きが後退すると、ユーロや豪ドルがドルや円に対して上昇し、ユーロ/円は128.12円、ユーロ/ドルは1.4193ドル、豪ドル/円は82.05円とそれぞれ高値を付けた。

③

一時80ドル超の値上がりとなっていたNYダウ平均株価が上げ幅を縮小するのにつれてユーロや豪ドルはドルや円に対しじり安で推移した。その後発表された米12月の中古住宅販売件数が予想を下回る545万件となったことで、リスク回避の動きからユーロ売りや豪ドル売りがさらに強まった。

ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・主要新興国(BRICs)を中心にドル離れに動くとの観測(ユーロ上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)

豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

本日の見通し

本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.4030-1.4250ドル
 ユーロ/円 : 126.30-128.50円

本日の予想レンジ

豪ドル/円: 80.80-82.30円

ギリシャの財務問題などを理由としたユーロ売りも一巡した感があり、本日のユーロ相場には方向感が出にくい展開となりそうだ。したがって、各国の株式市場や商品市場の動向及び経済指標の結果に一喜一憂する展開が予想される。まずは日銀が、政府と歩調を合わせ、デフレ不況克服のためには追加緩和も辞さない構えを打ち出すかどうか注目したい。下欄の注目イベント以外では英・第4四半期GDP(18:30)に注目、6四半期続いたマイナス成長から脱却することが予想されており、ユーロ/ポンド相場の動きには注意しておきたい。

豪ドル/円は明日の豪第4四半期消費者物価指数の発表を控え、株価や商品価格の動向につれての小刻みな動きが中心となりそうだ。中国の引き締め姿勢やオバマ大統領の金融規制案などの外部環境から、積極的にリスクを取る動きは限られそうで、豪ドル/円の上値は重い展開が予想されるが、2月の利上げ期待もあり、81円付近では底堅い動きとなりそうだ。突発的なニュースがなければ、明日9:30の消費者物価発表までは81円~82円の水準で推移する可能性が高いだろう。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/26(火)	未定	○	(日)日銀金融政策決定会合	-	-
	18:00	○	(独)1月IFO景況指数	94.7	95.1
	23:00	○	(米)11月S&P/ケース・シラー住宅価格指数[前年比]	-7.28%	-5.00%
	24:00	○	(米)1月消費者信頼感指数	52.9	53.5

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。